



みやまマルシェ



2025年 10月 31日(金) 開催!!

9月



2025年

みやま

第328号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



日本医療機能評価機構から感謝状をいただきました

院長 平川 淳一

日本医療機能評価機構は、医療機関の第三者評価を行い、医療機関が質の高い医療を提供していくための支援を行うことを目的に1995年7月に設立されました。ちょうど、私が院長になったのが同じ年の9月でした。病院協会の集まりで、審査を受ける病院が少なく、なんとか協力をしてくれと頼まれ、断り切れずに手を挙げたのが昨日のことに思います。突然の受審であり、当時の職員は院長が厄介なものを引き受けてきたと険悪な雰囲気でしたが、新院長の頼みということで協力をしてくれて、精神科病院の中では全国で4番目、東京都では1番目の認定をいただきました。今の平川病院に比べれば、全く別物だったとは思いますが、これを糧にやってきたことで、皆さまの信頼をいただける病院になってきたと思います。

今年、機構の設立30年記念事業の1つとして、当初から参加して認定を継続した病院に感謝状がでました。本当に、職員の皆様の日頃の研鑽のお蔭だと思います。私も今年9月で院長として勤続30年を迎えました。誰もお祝いも慰労もいってくれませんが、自分としてはよくやったと思っています。今後も、平川病院が地域の皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、どうかご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

【表紙】院長あいさつ 【P2】退院支援特集①地域生活支援から退院支援を考える

【P3】退院支援特集②地域資源を活用した退院支援

【P4-5】退院支援特集③退院支援の取り組み紹介 【P6】みやまマルシェについて・編集後記

特集
退院支援**『地域生活支援』から『退院支援』を考える**

地域生活支援科・デイケア科 精神保健福祉士 石橋 さおり

当院では、長期入院の方の退院支援をグループホーム美山ヒルズ（以下ヒルズ）を活用しながら展開してきました。退院支援について書くにあたり昔にさかのぼりますが、今の当院の退院支援に引き継がれていると思うのでおつきあいください。

ヒルズが福祉ホームとして昭和63年に開設し、私が当院に入职した平成1桁代の頃は地域の支援といえば八王子では作業所が数か所あるくらいで、選択肢はありませんでした。そのような中、退院後の生活や支援のあり方を教えてくれたのは、当時当院の敷地にあったヒルズの入居者やヒルズの活動でした。退院後どのような暮らしの中で、どんなことに迷い、逆に安心されるのか等教えてもらいながら、病棟担当PSWとしてヒルズやヒルズ以外での退院後の生活のイメージを入院患者様と膨らませて退院支援を進めました。そのため、自然と地域の暮らしや支援から退院支援を考えるクセが付き、外来患者様を支援する部署の所属となった今も、私達の立場から退院支援にできることをしたいと考えています。そのような主旨で、訪問看護やデイケアから退院支援について記事を寄せることにしました。

**訪問看護**

退院後の生活はご自分の健康に注意しながら、服薬、便秘や不調時の頓服薬を使う、通院や薬の受け取り、買い出し、食事の準備、定期的な掃除とゴミ出し、電話やメールを使う、書類手続き、友人とのつきあい、余暇活動等、さまざま気を配る必要があります。入院中にできていたセルフケアが、退院後に主体的に行うことが難しい方もいます。そのため、退院後の生活を患者様や病院職員と一緒にイメージしながら準備する必要があります。当院では職員が協力して退院支援に取り組んでいます。地域支援科は、入院中に取り組んだ退院支援がスムーズにできるように外来患者様の支援をしています。

デイケア

入院中からデイケアの見学・お試し参加を実施し、退院後に安心して通所いただく。

- ・A2病棟とアルコールデイケアの合同プログラムを通し、退院後の生活のイメージ作りやデイケアへのスムーズな通所につなげる。
- ・デイケア利用者が入院した際は、入院中から退院後の生活プランの検討に関わり、退院後にデイケアを基盤として地域生活を再スタートする安心感をもっていただく。
- ・退院前カンファレンスに参加し、患者様だけでなくご家族や関係機関にデイケアの役割をお伝えし、退院後の支援に活かす。

特集
退院支援**「地域資源を活用した退院支援」**

東5病棟 看護師 久保 誠明

長期入院患者様が再び地域で安定した生活を送るためには、退院後の生活基盤の整備と継続的な支援が不可欠です。病棟での治療や生活訓練に加えて、地域にある多様な社会資源との連携が、効果的な退院支援に繋がると感じます。

先日、地域包括支援センターや就労支援事業所、通過型グループホームなど、複数の社会資源を見学する機会がありました。地域生活支援センターでは、日常生活や福祉制度に関する相談支援に加え、日中に立ち寄れるフリースペースや交流プログラムを提供しています。利用者同士が経験を共有できるピアサポートが重視されており、退院直後の孤立感を和らげ、地域生活への適応を促す取り組みが印象的でした。また、医療機関と情報共有を行う体制が整っており、生活状況や体調変化を早期に把握できる点も心強く感じました。

経済的自立や社会参加を目指す場合には、就労継続支援事業所や就労移行支援事業所の利用が有効です。B型事業所では、負担の少ない作業を通じて生活リズムを整え、作業能力の継続・向上を図ることができます。就労移

行支援事業所では、一般就労を見据えた職業訓練や就活活動の支援、さらに就職後の職場定着支援も受けられます。

住まいの確保については、通過型グループホームが重要な役割を果たしていると感じます。一定期間の滞在を経て自立生活への移行を目指す施設で、必要に応じ生活支援員の見守りの下で調理や買い物、金銭管理などの生活スキルを身につけることができます。個々の生活リズムに合わせた支援が行われ、入居者が自立に向けた準備を進めやすい環境が整っていると感じました。

社会復帰病棟での退院支援は、単に地域へ送り出すことではなく、退院後の生活の質を保障する取り組みだと考えます。医療スタッフが地域資源と密接に連携し、本人の希望や能力に沿った支援計画を立てるとともに、退院前から地域資源との接点を持つことで、環境変化への適応をスムーズにし、地域生活の継続を支えることができると考えます。

今後は当院における退院支援においても、今回の見学で得た知見を活かし、支援の更なる充実を目指していきます。



【外 観】



【作業現場風景】



退院支援の取り組み紹介



作業療法科

作業療法科 科長 作業療法士 土屋 貴裕

作業療法で退院支援に特化したプログラムとして、【IADL（手段的日常生活動作）プログラム】があります。5月号でも紹介をさせていただきました、身の回りの整理整頓や、身だしなみを整えることの他にも、“暇な時間に何をすればいいのかわからない”、“掃除や洗濯はいつやればいいんだろう”といった、実際に地域で生活している患者様からの声をもとに立ち上げた、【1日の過ごし方を考える】プログラムも実施しています。退院先への外出泊のスケジュールを表に書き出してみると、“意外とやることが多い”と感じる方もいらっしゃるれば、“自由な時間が多いけど何をすればいいのか…”と思う方もいらっしゃいます。

グループで取り組む作業療法だからこそ、経験者のリアルな声を聞くことができ、ご自身の退院後の生活をより具体的にイメージする機会を提供できています。



薬剤科

薬剤科 科長 薬剤師 大塚 晃弘

薬剤科では、大きく分けて『入院中』と『退院後』の支援となっています。皆さんも良くご存じの服薬指導は入院中から実施していて、これは入院時に今どのような薬を飲んでいるのかを入院患者さんに知って頂くという目的もありますが、退院後に服薬を継続できるようになる準備も含まれています。同様に入院中に実施している支援としては、退院後の生活を見据えて行っている統合失調症疾患教育『やまゆりの会』での‘統合失調症の薬について’を担当し、患者さんが納得して薬を続けることが出来る支援をしています。また、急性期病棟での多職種によるプログラム『虹の架け橋』での‘お薬の会’では、正しい薬の服用方法や市販薬を含めた薬との付き合い方についての講義も行っています。

退院した患者さんには、美山ヒルズでの『お薬セミナー』を定期的実施し、退院後に地域で暮らしている患者さんの何気ない疑問や薬の使い方、例えば便秘の薬の使い方など困りごとの無いようにとの支援も行っています。同様な形で、デイケアでのお薬勉強会も今年度から開催し、メンバーの方に薬の知識を高めてもらったり、正しい薬の服用方法についての支援を行ったりしています。また、クロザピンを服用している外来患者さんを中心に訪問看護での薬剤師随行動も行き、特に厳格な管理が必要とされているクロザピンの服薬の支援も今年度から実施しています。このように薬剤科での退院支援は、退院後に患者さんが納得した服薬を継続し、より良い生活を送れるようにすることを目指しています。





栄養科

栄養科 管理栄養士 遠藤 優

個別の栄養指導

退院後の食事に関する不安や疑問など、患者様の病状に合わせて管理栄養士が栄養指導を行っています。退院先（自宅や施設・グループホームなど）も考慮し、患者様や支援者に作成した資料を見ていただきながら指導をしています。退院後は、必要に応じて外来で栄養指導を行い継続的なサポートができるよう心掛けています。



集団栄養指導

病棟では月に1回集団栄養指導を行っています。内容は様々ですが、退院後の食生活をイメージできるように「お惣菜やお弁当の選び方」など食事の組み合わせの指導も行っています。



医療相談員との連携

訪問看護に同行し、栄養指導や調理指導を行っています。
（例）作業所に持っていくお弁当の作り方（衛生面も指導）
野菜サラダの作り方（包丁の使い方・盛り付け方など）



リハビリテーション科

リハビリテーション科 主任 理学療法士 奥出 聡

リハビリテーション科では、入院中から退院後の生活を見据え、自宅や施設など多様な退院先に応じた支援を行っています。病棟カンファレンスでの主治医や看護師、リハスタッフ、精神保健福祉士など多職種の連携により、治療方針や支援体制について情報を共有します。そして、日々のリハビリとして自宅復帰に向けた動作訓練や生活訓練、施設入所に備えたセルフケア練習、外来通院者には交通機関の利用練習や生活リズムの整備を提供しています。また、必要に応じて居宅訪問を行い、住宅改修や福祉用具、訪問・通所リハや精神デイケアなどの福祉サービスを活用した、心身機能の維持・向上を提案します。

退院前には、ご家族や地域の支援者様に介助方法や転倒・誤嚥予防について書面や面談を通じて説明しています。過去に、当院入院中に義足を製作し、退院したのちに再就職された方から、時折お元気な様子でお電話をいただくことがあります。そうしたご連絡を通じて、地域での生活の継続や社会参加に私たちの関わりが繋がっていることを感じ、とても励みになっています。今後も安心して皆様が地域生活を送れるよう、丁寧な支援を行ってまいります。



みやまマルシェ

令和7年10月31日(金) 10:00～15:00

場所: 平川病院職員駐車場(※雨天の場合は室内)



模擬店
焼きそば、豚汁、
フランクフルト、
コーヒー など



物販ブース
衣類、食品、日用品 など

部門ブース
看護部ブース
フレイルチェック、血圧測定
健康相談会 など





体験型ブース
デイケア ゲームコーナー
造形教室 ワークショップ
作業療法科 参加型イベント
景品・参加証あります。

協力企業ブース
八王子市内の作業所
衣類、食品、作業体験など
ミドリ安全株式会社
災害対策用品の展示など



たくさんのご来場を
お待ちしております

8月現在の出店予定となります。変更、追加がありましたら随時お知らせいたします。



令和7年度 合同慰霊祭について

当院6階ホールにて、合同慰霊祭が
しめやかに執り行われました。

編集後記

編集後記を担当し、丸1年が経過しました。今回は広報誌みやまの原稿校正についてお話したいと思います。今年度は毎月テーマを決めて特集を組んでいます。1つのテーマに沿ってそれぞれの部署の役割、そして他部署との連携を通して、いかに分かり易く平川病院の“強み”や“良さ”を皆さんへお届けできるかを常に念頭に置いています。取材力アップを目標に掲げ、これからも校正メンバー丸となって取り組んでいきますので、引き続き広報誌みやまを宜しく願いいたします。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

